

2022年8月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回9月のてがたんは9月10日(土)で、テーマは「手賀沼のサギのなかま」です。ぜひご参加ください。9月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は9月4日(日)です。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→親水広場
- 観察日時と天気：2022年8月13日(土) 10:00~11:00 曇り
- 参加人数：7名(大人5名、中学生以下2名)
- 市民スタッフ：3名(小泉伸夫、石原直子、木村 稔)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

【鳥類】

「*」は、下見だけで見られたもの。赤字は手賀沼における外来種

キジ科：キジ* / カイツブリ科：カイツブリ(声) / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ / クイナ科：オオバン / タカ科：トビ、サシバ / キツツキ科：コゲラ / カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ツバメ科：ツバメ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / メジロ科：メジロ / ヨシキリ科：オオヨシキリ / ムクドリ科：ムクドリ / スズメ科：スズメ / セキレイ科：ハクセキレイ / アトリ科：カワラヒワ / ホオジロ科：ホオジロ 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生爬虫類】

両生類：ニホンアマガエル、ウシガエル(声)、ヌマガエル / 爬虫類：ニホンカナヘビ、ミシシippアカミミガメ

【魚類】

カダヤシ*

【昆虫】

チョウ目：アゲハ、ジャコウアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、コムラサキ、セスジスズメ、ヒロヘリアオイラガ / トンボ目：ギンヤンマ、ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、コフキトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、アジアイトンボ、アオモンイトトンボ / カマキリ目：ハラビロカマキリ / バッタ目：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、コバネイナゴ、ヒシバッタ、ハネナガヒシバッタ、クルマバッタモドキ、ヒナバッタ、マダラスズ、シバズ、キンヒバリ / カメムシ目：アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミ、マルカメムシ、カメムシの不明種(小さい・黒色)、アワダチソウグンバイ、アメンボ / コウチュウ目：マメコガネ / ハエ目：クロバネツリアブ / ハチ科：コアシナガバチ?

【花・実】

草の花 キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、ハルジオン、ヒメジョオン、アレチノギク、ブタナ、ハキダメギク / ハエドクソウ科：トキワハゼ / アカネ科：ヘクソカズラ / ミソハギ科：ミソハギ / オオバコ科：ヘラオオバコ / ツユクサ科：ツユクサ / セリ科：セリ / アヤメ科：オオニワゼキショウ / ヒユ科：イヌビユ、ナガエツルノゲイトウ / アカバナ科：オオバナミズキンバイ、アカバナユウゲショウ / アブラナ科：イヌナズナ / カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ、イモカタバミ / タデ科：イヌタデ、ヤブタデ、シロバナサクラタデ / マメ科：シロツメクサ、クサネム / アオイ科：モミジアオイ

8月の観察アルバム



今回のテーマは「外来種ってどんな生きもの？」でした。外来種には人の暮らしや生態系に悪影響を及ぼすものがあることをお話しし、実際にてがたんコースで見られる様々な外来種を観察しました。



今月の案内人
小田谷嘉弥・小泉伸夫



①ケヤキの葉を食べていた
ヒロヘリアオイラガの幼虫



②葉の中のガの幼虫？を食べていた
シジュウカラの幼鳥



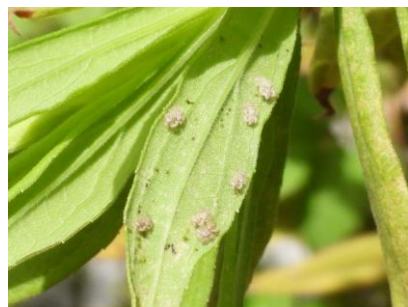
③地上で昆虫を探して食べていた
ムクドリの子鳥



④釣り堀近くのヨシ原の中に咲いていた
モミジアオイ



歩いたルートと観察した生き物



⑤セイタカアワダチソウの葉の裏にいた
アワダチソウグンバイ



⑥アメリカでは侵略的外来種として
問題になっているクズ



⑦手賀沼周辺で近年増えている
国内外来種のヌマガエル



⑧混生していたナガエツルノゲイトウと
オオバナミズキンバイ

今月の鳥 コブハクチョウ (カモ目カモ科)

コブハクチョウはもともと日本には分布していなかった鳥で、1950年代に東京都内の皇居に放鳥されたのをきっかけに、国内各地への導入が始まりました。手賀沼では1990年から繁殖するようになり、その数は2019年まで急激な増加を続けています(2020年からは手賀沼内の数は減少に転じています)。個体数の増加に伴い、手賀沼周辺の農地での農業被害も報告されるようになりました。また、大量の水生植物を食べることから、生態系への悪影響も懸念されています。近年、利根川下流域では分布が拡大しており、手賀沼周辺で繁殖したものが分散している可能性が指摘されています。野外における数を増やさず、分布を広げないような総合的な対策が求められています。



コブハクチョウの家族